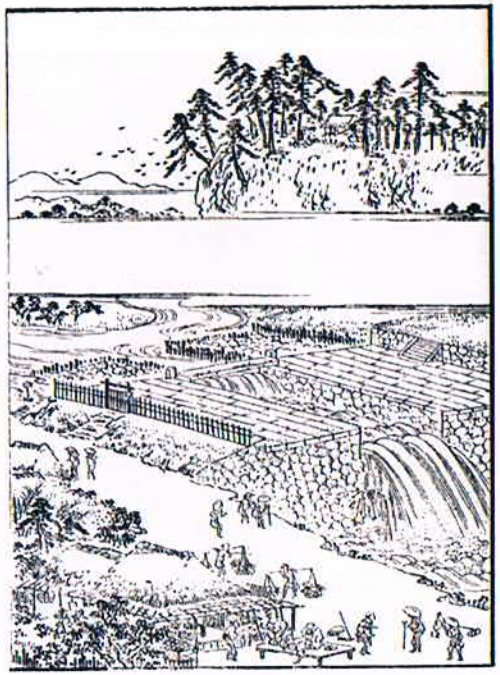
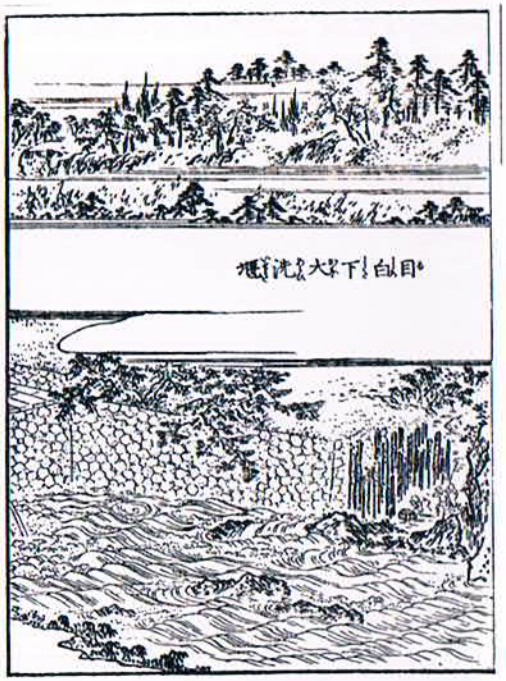
⑦関口大洗堰

「目白の眼下にあり、井頭の池水にして江戸城下に通ぜしむ」





白魚の上る清流に江戸市中の水源を求めた

神田上水は、徳川家康が江戸に入った天正18年（1590）の少し後に開かれました。井の頭池を水源とし、明治34年（1901）に閉鎖されるまで江戸・東京の人びとに飲用水を供給しました。大滝橋近くに大洗堰が設けられ、ここで神田上水の水位を上げ、上水路を通して小石川の水戸藩上屋敷（後楽園）を通り水道橋から懸け樋を通じ江戸の町へ配水した。明治になっても活用されたが明治34年に飲用水への利用を終えた。

東京名所四十八景「関口目しろ不動」
明治4年（1871）

関口大洗堰　取水口の石柱

関口大洗堰　大正8年（1919）

平成最後の

祝改元「令和」

'19横浜歴史研究会の春の散歩

江戸郊外の名勝を訪ねる

江戸名所図絵でひも解く

「早稲田の杜から神田川 春の庭園をめぐる」

平成31年4月21日（日曜日）

スタート　東京メトロ東西線 早稲田駅

❶穴八幡神社

REKILEC

❷高田馬場跡

❸水稲荷神社
高田富士
堀部安兵衛碑

REKILEC

❹甘泉園

REKILEC

❺姿見橋（山吹里碑）

❻肥後細川庭園

❼関口芭蕉庵

REKILEC

❽椿山荘庭園

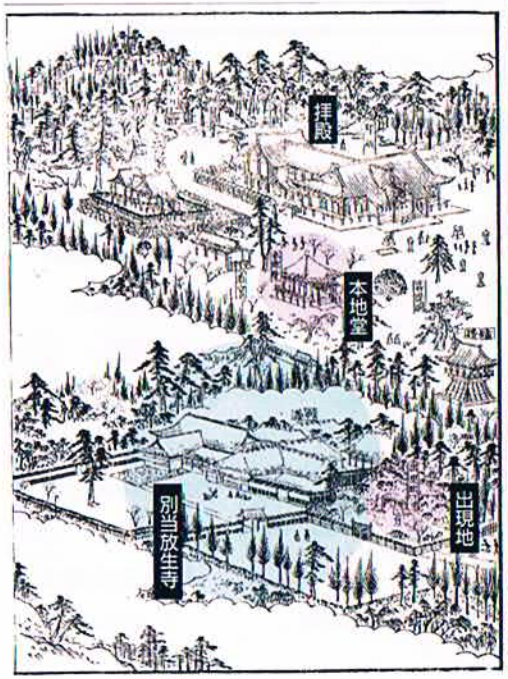
❾関口大洗堰

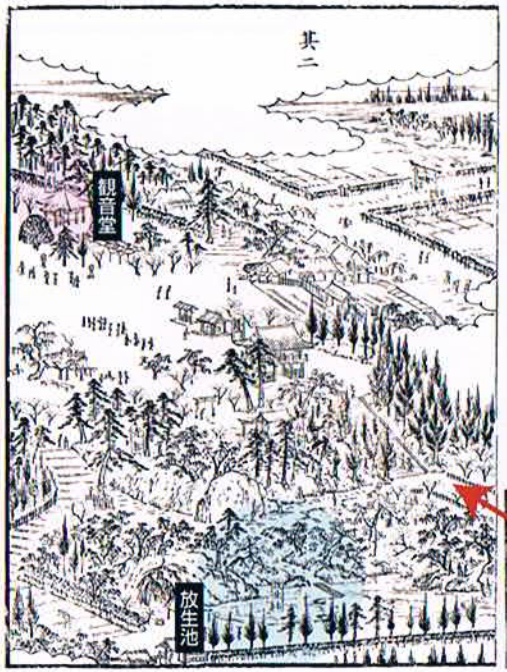
REKILEC

ゴール　東京メトロ有楽町線 江戸川橋駅

①穴八幡神社

「牛込の総鎮守にして高田にあり、この地を戸塚という」





現,穴八幡入口

将軍家祈願所として江戸屈指の大社だったのになぜ葵の紋がない？

1062(康平5)年、奥州の乱を鎮圧した源義家凱旋の折、源氏神八幡宮を勧請、創建した。

1641(寛永5)年、宮守の庵を造るため山裾を切り開くと、神穴が出現し中から金銅の御神像が現れた。以後穴八幡宮と称されるようになる。この頃、将軍家光の上聞に達し、当社は江戸城北の総鎮護となる。

1649(慶安2)年、社殿を始め数々の殿舎が竣工し、壮麗な建物が櫛比して将軍家祈願所として江戸屈指の大社となった。

廃仏毀釈により放生寺に葵、八幡に菊

江戸名所図会にあるように神社境内に観音堂、本地堂(阿弥陀堂)があり、当時の日本仏教の神仏習合の特徴がうかがえる。明治の廃仏毀釈までは別当放生寺住職が寺と穴八幡宮の一山を治め徳川将軍家とも親交厚く、付近一帯は放生寺門前町と呼ばれていた。

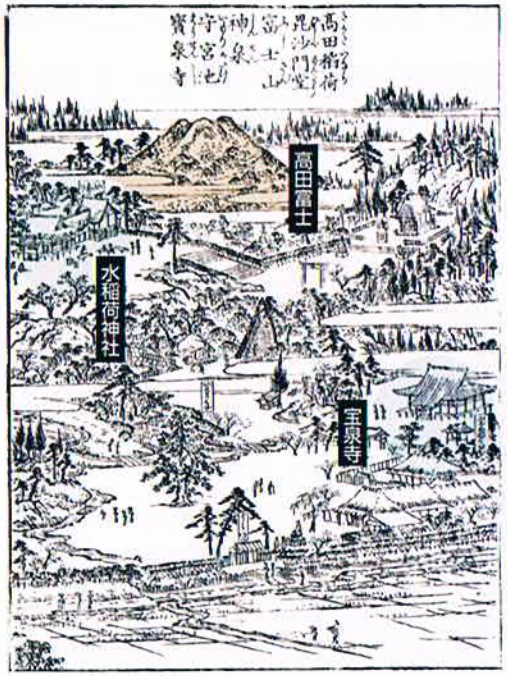
*別当だった放生寺は現在図絵の放生池辺にあり、観音堂、出現地も現寺に移されている。

②高田馬場跡～水稲荷神社（戸塚稲荷）・高田富士・堀部安兵衛の碑

「戸塚村の産神と称す。霊泉湧出し水稲荷とも称せり」

右下が茶屋町

馬場は寛永13年（1636）に造られ、旗本たちの馬術の練習場となる。



宝泉寺（現存）内にあった高田富士と水稲荷神社(高田稲荷)、現在の早稲田大学9号館裏辺。共に昭和38年(1963)に移転。

一汗かいて茶屋で一杯。高田馬場は旗本達のさしずめスポーツジム？

浪人安兵衛はこの馬場で男をあげる

馬場の一角、茶屋町通りに面した場所は堀部（中山）安兵衛が叔父の菅野六郎　左衛門の助太刀をしたとされる。水稲荷神社境内に「堀部武庸加功遺跡の碑」が建つ。

中山安兵衛顕彰碑

水稲荷神社

宝泉寺は「水稲荷」と「富士」でビジネスか？

水稲荷神社（941年俵藤太が勧請）は、『江戸名所図会』に描かれた当時、「高田稲荷」とよばれていた。安永9年富士講の先達日行青山（高田藤四郎）は水稲荷の側に富士塚を建造した。

高田富士を拝めるのは年2回だけ

毎年7月3週目の週末2日間だけ行われる「高田富士祭」で登拝することができます。

③甘泉園～姿見橋（山吹の里）～肥後細川庭園

「山吹の里－高田馬場より北の方の民家の辺りをしか唱ふ」

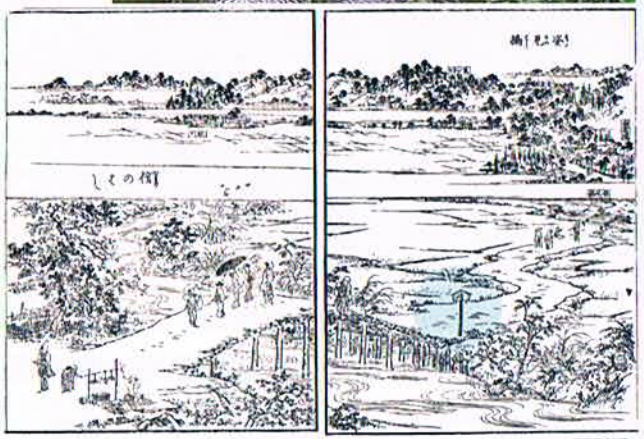
御三卿清水家の下屋敷は山吹の里と呼ばれるのどかな田園にあった。

甘泉園の地は、宝永年間（1704-1711年）に徳川御三家の一つ尾張徳川家の拝領地となり、その後安永三年（1774年）に初代清水家の江戸下屋敷が置かれていた。明治以降は、子爵相馬邸の庭園として整備され、昭和には早稲田大学が付属甘泉園として譲り受けた。昭和44年には区立公園となり、現在に至る。

甘泉園

〈季節の見所〉

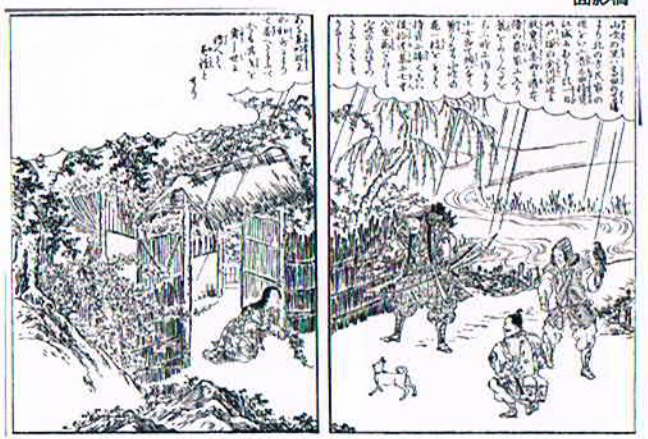
- ●要黐（カナメモチ）の赤い新芽
- ●ツツジの花
- ●木々の新緑


面影橋

「七重八重　花は咲けども山吹の
　実の一つだに　なきぞ悲しき」

太田道灌が鷹狩りの際雨に降られ、農家の娘に蓑を所望するが、山吹の一枝と後拾遺和歌集にある歌で謝られるとの逸話が残る場所。

山吹の里の碑


太田道灌「山吹の里」

④肥後細川庭園

「南に早稲田の耕田を望み、西に芙蓉の白峯を顧みる」

肥後熊本細川侯下御殿の面影を残す、池泉回遊式庭園

斜面の起伏を生かした美しい景観

肥後細川庭園は、目白台の台地(関口台地)の自然景観を活かした池泉回遊式庭園である。

この公園周辺は、江戸中期以降は旗本の邸地になり、江戸末期には清水家や一橋家の下屋敷となった。そして幕末には熊本54万石の細川侯の下屋敷となり、明治15年には細川家の本邸となる。戦後都立公園として開園、昭和50年に文京区に移管された。

〈季節の見所〉

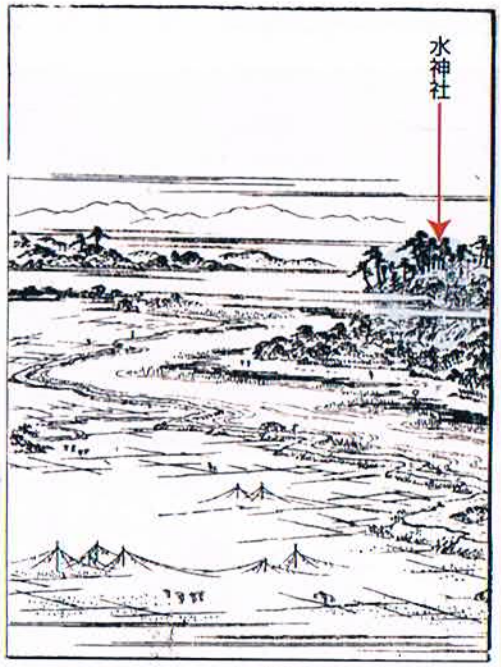
ハナニラ

肥後シャクヤク

シロヤマザクラ

⑤関口芭蕉庵（竜隠庵）

「東に関口の水音冷々として、後に目白の台聳えたり」



左、水神社は竜隠庵の別当。上水の守護神を祀るため北辰妙見大菩薩を安置する。下は駒留橋。

近江の瀬田を想い芭蕉は「五月雨に隠れぬものや瀬田の橋」と詠んだ

旅し佇む芭蕉の世界を肌で感じる庵

俳人松尾芭蕉（1644～1694）が、2度目の江戸入りの後、1677年から3年間この地に住んだ。延宝年間伊賀上野の藤堂家が神田上水の改修工事を行っており、芭蕉はこれにたずさわり、工事現場か水番屋に住んだといわれる。

後に芭蕉を慕う人々が50周年忌を記念して「竜隠庵」という家を建てた。現在のものは第2次大戦後の建築である。

関口芭蕉庵

歌川広重「江戸名所百景-関口芭蕉庵椿山」

⑥椿山荘

「南北朝の頃より椿の自生するこの地を椿山と呼んだ」

明治の元勲 山縣有朋眷が趣向をこらして作庭、「椿山荘」と命名

歌平安期の人小野篁ゆかりの寺院

青面金剛の庚申塔

注意…庭の散策は大声を出さず静かに鑑賞ください。

古くから椿の木が多くあったので椿山と呼ばれ、近くの武家屋敷も椿山荘と呼ばれていた。江戸切絵図によると敷地は、上総久留里藩黒田豊前守の下屋敷（表紙地図参照）であった。

明治11年(1878)に第3代、第9代総理大臣を務めた・山縣有朋が、自分の屋敷として「椿山荘」と命名、趣味である作庭を行う。

木食上人作とされる丸型大水鉢

大正7年(1918)に阪神財閥のひとつ藤田財閥が別邸として譲り受け、昭和27年に結婚式場として開業。その後ホテルとして変遷、現「ホテル椿山荘東京」となる。

伊藤若冲の下絵による五百羅漢の20体

鎌倉時代後期の逸品般若寺式灯籠

[人物考] 30万対0、死して名園残すも名声ならず。

軍人としては日本陸軍の基礎を構築し元帥陸軍大将を務め、政治家としては総理大臣を務めた山縣有朋だったが、国民からは嫌われた。その最たるものが近代日本初の汚職「山城屋事件」の嫌疑であった。大正11年亡くなった時、日比谷公園で国葬が開かれたが、陸軍や政治関係者が参列したもの一般国民はほとんどいなかった。一方1ヵ月前に亡くなった山県とは犬猿の関係だった大隈重信の国葬には約30万人の国民が参列、人は道路にまで溢れた。